

葉山町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 開会年月日 令和 6 年 1 月 2 4 日（水）
- 2 開 会 場 所 保育園・教育総合センター 会議室
- 3 出 席 委 員 教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
委 員 鈴木伸久
委 員 下位勇一
委 員 清水衣里
- 4 出 席 職 員 教育部長 中川禎久
教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 濱名恵美子
生涯学習課長 守谷悦輝
図書館長 中村太郎
- 5 議 長 教育長 稲垣一郎
- 6 書 記 教育部長 中川禎久
- 7 開 会 午前 9 時 5 9 分
- 8 閉 会 午前 1 1 時 1 9 分
- 9 次 第 日程第 1 前回会議録について（葉山町教育委員会12月定例会会議録）
日程第 2 教育長の報告事項について
日程第 3 議案第19号 葉山町学校運営協議会委員の解職について
日程第 4 議案第20号 葉山町学校運営協議会委員の委嘱について
日程第 5 議案第21号 令和 6 年度葉山町教育予算（案）について
日程第 6 議案第22号 令和 5 年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第 9 号））（案）について
日程第 7 報告第 1 号 教育長の専決事項（事務局等の職員の人事異動）について
日程第 8 各課からの報告
① 生涯学習課
・二十歳のつどいについて
・草津スキー教室について
日程第 9 その他

（開会宣言）

教 育 長） ただいまから葉山町教育委員会 1 月定例会を開会いたします。

本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第 3

項の規定による定足数に達しておりますので、有効に成立しております。

時刻は9時59分でございます。

今日は傍聴人の方いらっしゃいません。

本日の日程は次第のとおりです。会議次第についてご異議ございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

なお、会議録作成上、質疑の際は挙手をしていただき、こちらで委員の名前を指名した後、発言をお願いします。また、質疑をされるときは何についての質問かを明確にお願いいたします。

(前回会議録について)

教育長) 日程第1「前回会議録について」を議題とします。

教育部長、説明をお願い申し上げます。

教育部長) 日程第1、前回会議録について。それでは、12月定例会につきましてご報告いたします。各委員の皆様には会議録を配付させていただいておりますので、内容については省略させていただきます。

なお、12月定例会は教育長及び教育委員の出席が5名、開会、午前10時、閉会、午前11時58分でございます。以上です。

教育長) ありがとうございました。ご意見、ご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。以上、前回会議録については原案のとおり承認されました。

(教育長の報告事項について)

教育長) 日程第2「教育長の報告事項について」を議題といたします。

本来、会議の冒頭だと思いますけれども、まず、こちらの報告ですので、能登方面で起きた地震で残念ながら命を落とされた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々の一日も早い地域の復興を祈念申し上げたいというふうに思います。

ニュース等で聞く限り、学校もようやく再開に向かっているというところは聞いておるところですけれども、恐らく子どもたちや教員の苦労を思うと、本当に私たちも今こうやって暮らしていけるということ、本当に幸せであるというふうに思う毎日でございます。行政としても、教育委員会としても、できることをこれから考えてまいりたいと思っております。また、様々ご意見を頂ければとい

うふうに思いますので、よろしくお願いします。

ちなみに、消防のほうもすでに第5陣ですかね、能登のほうに入ったという話も伺っております。それから行政、葉山町のほうとしては、今週の末からですか、派遣という形でお手伝いに参加するという話を伺っておるところでございます。

では、報告に入らせていただきたいと思います。別紙をご覧くださいますと、報告事項4件でございます。4件についてお話をするとともに、先回12月に少し時間がなかったのでお話ししませんでしたOECDのPISAの関係についてお話を少しだけさせていただければと思います。

まず、1月8日、二十歳のつどいが福祉文化会館の大ホールで開会されました。対象者316名いらっしゃるということでしたが、270名というたくさんの方々が参加してくれました。これは毎年葉山のいわゆる成人式だった時代からそうだけれども、参加率が高いですね。葉山を本当に愛している子どもたちが多いということだと思います。町長、議会の議長、副議長、それから教育民生常任委員会の委員長が参加していただいて、会自体は楽しく進んだと考えております。町長から祝辞として、住み続けたい町の話がされ、その結果として、二十歳になった若人に対して、葉山を出ることもあるだろうけれども、またぜひ戻ってきてもらいたいんだという部分で、お祝いの言葉を若人のほうに言っていました。

例年のとおり、恩師の方々もたくさん晴れの日をお祝いに来てくださいました。さらに今年は、私は初めてでしたが、祝賀の簡単な飲食ができる会を、終わった後に、大会議室で実施いたしました。非常に中が混んでいて、ほぼ立錫の余地がないぐらいの感じで、よくみんな出ていかないなというぐらいの感じで、たくさんの子たちが、恩師の方々も含めですけれども、昔話に花を咲かせていたというところで、非常にいい会だったなと考えております。

続きまして、15日（月曜日）、学校施設あり方検討委員会についてご報告を申し上げます。いよいよもって学校の施設、どんな形で今後葉山としては考えていくかという委員会を、第1回目を開催させていただいたところです。問題は、そのときの冒頭でもお話をしましたが、ご承知のとおりで葉山の小・中学校、建設がされてから40年、50年がたっているところがほとんどでございまして、老朽化、これについても本当に喫緊の課題だと考えているんだというところ。それから、小中一貫校を想定している中での学びやの在り方、これについても今後どんな形にしていくなのか。さらに言うならば、学校というところを地域の中の一つの拠点にしていくための複合施設化の考え方も含めてどんな形がいいのかというところを委員の方々にお話をさせていただきたいということで、諮問をしていただくための委員会とお考えください。委員長には関東学院の出石法学部長を、それ

から副委員長には前教育長の返町さんを委嘱させていただきました。これから活発な議論を深めていただき、諮問を頂ければと考えております。

3点目、16日（火曜日）、湘南三浦教育事務所管内教育長会議が開催されました。冒頭に、県教育委員会行政部長である高安さんがおいでになりまして、働き方改革と不祥事防止について、県教育委員会から話があったということがございます。事務所長からは、今年の県教育委員会のテーマ、3点お話がありました。1つは不登校対策、2つ目、働き方改革、3つ目、インクルーシブ教育という話が1点目でした。

2つ目として、教員の採用についてでございますが、従前もお話ししたかもしれませんが。神奈川県教育委員会としての一つの教員採用の施策の一つですが、大学3年生、現3年生からの早期受験制度が開始がされました。思ったよりも反応がよくて、特にこちら側がぜひ欲しいと思っていた中学校の少数職種、いわゆる芸術系であるとか、家庭科であるとか、それから技術ですとか、そういう科目に受験生も本番の試験よりも多く集まっていたということが報告されています。一次試験が終わったところでございますので、2月の前半で面接等が行われて最終的に選考での可否の選考者が決まるという形になろうかと思っております。せっかくなつくた一つの施策ですので、これが一つの教員の採用の部分で、いい形になってくれればありがたいと思っています。3年次の受験については、大学からの推薦も当然そこでかかっていますので、どちらかという大学にとってみると、しっかりと教員になりたいという子たちを3年次から送り込んでくれるということがあるんだというメリットもあろうかと思います。

それでは3点目です。ごめんなさい、3つ目として、事務所長のほうからは次年度の人事についての話がありました。これについては例年のごとくです。管理職人事の話、それから新採用の配置の話等々です。

それから4つ目、先ほどお話をしました管理職人事ですけれども、管理職につきましては、これは湘三管内全て、当然葉山もそうですけれども、次の管理職になる候補者が非常に少ないです。これは年齢構成で致し方ない状況がありますので、湘三管内様々な形で、逗三葉を中心に人事交流をしながら人事の育成をしていくというところをぜひやってほしいという部分でした。

それから4つ目として、ちょっとびっくりする話ですが、先生方の旅費に関して、現金での受け渡しをやめるんだそうです。振込になってなかったということなんですね。何をやっているんだという話なんです。やっとななるというところでございます。ですので、これについてはぜひ、今まで現金でもらった先生方が拒否しないようにというお話をされていまして。今のうちから振込でお願い

したいというところでした。

本来であるならば、県費負担職員ですから、人事給与の全てつまり出張、年休、旅費含めて全てシステム化すべきだというのは当たり前の話なんです。県自体のシステムの改修の時期が少し先でして、令和9年度でシステム化が完全に改修されるということです。恐らく令和9年度中で中学校・小学校の先生も出張、年休含めてシステム化されていくという形になろうかと思います。本当にいつの話なんだろうという、高等学校等に比べると、小・中学校の先生たちにはご苦労をかけているなというところが、こういうところにもあるなと思っております。

それから、先ほどの人事の話にも絡むんですが、採用の話を少し申し上げておきますと、新採用配置につきましては、残念ながらこちらの需要と供給の関係で、欲しいという100%の配置は、やはりなかなか難しいという見込みです。ですので、学校教育課長には既に話をしておりますが、臨時任用、臨任の方々の目当て等を早めにつけておくべきだと。そうじゃないと未配置になってしまいますので、4月1日の段階で未配置があるというのは、これは非常に大きな問題になりますので、そうならないように、新採用の方、何人来るのか、それからそこに来なかった場合の配置等をこれからまた学校教育課長を中心にしっかりと組み立てていって、4月1日の段階では、去年もそうでしたが、葉山は未配置ゼロでしたから、同じような形をとれるように頑張ろうという話をしているところでございます。

湘三管内の教育長会議は以上でございます。

4つ目です。23日、昨日、三浦半島地区の教育長協議会がございました。これは、三浦半島地区でございますので、葉山、それから逗子、三浦、それから横須賀の4自治体の教育委員会が年に1回集まって、テーマを決めて協議会をし、さらにその後で、親睦を深めるということも重要でございますので、一杯やるということが、もともとの会の趣旨だったそうです。ところが、コロナがあった関係で、コロナ前のときにはその形で動いていたのが、過去4年間、一切実はほぼほぼできていなかった。去年は協議会だけやりましたが、あと少し施設見学をしただけで、なかなか親睦にまで至らなかったということがありましたが、昨日は親睦までできましたので、ある意味では実りあるというか、表ではなかなか話せないことも、各教育委員会の課長さんを中心にお話をしていただいたというところなんです。私も4自治体の教育長の一人でございますので、教育長さんたちといろいろ話をして、どこの自治体でも本当にご苦労あるなということを伺いながら、とはいえ、苦労話を聞くだけではなく、お互いの中で補完できるところ、さらに言うならば協力ができるところというものも当然見えてまいりましたので、その辺

も話をし、今後また相談に行きますねと言いながら昨日別れたところでした。

当然、この中で一つテーマを設けて昨日協議会をしたわけですが、これも各、神奈川県だけではなく、全国の中でやはり学校の中で大きな問題になっている部活動の地域移行についてをテーマとして、お話を各自治体からしていただきました。答えを申し上げますと、どこの自治体も本当に困っていられます。きちっとした形で答えが見えるお話をされた自治体は一つもないですね。非常に難しい問題だと思います。国自体のスタートラインでこちらが広報媒体から知っていた予算額は、本当に10分の1以下になってしまった関係もありますし、この関係で外部の指導者をどうやって雇うんだという話も出てまいりますので、なかなか本当に難しいなと。国自体が言っているところは、今年、来年、再来年の3か年ぐらいで一旦のめどをつけろと言っているんですが、なかなかそうもいかないだろうというところですよ。葉山はご承知のとおりで、いわゆる「うえるま」という団体も立ち上げました。個別に学校の部活ではないような種目について、個別に実施をしていただいているところもありますが、本来筋である学校部活の地域移行化については、今のところ、簡単に申し上げますと端緒というところもつかめてない状況です。ですので、これまで学校に対して行ってきた学校の教員以外の部活動の指導をしていただける個別の方々を探して、町費でさらにそれをつけてあげるということを一生懸命している状況です。国庫の補助もございますので、そこを踏まえた上で、今後どうしていくか、また考えていくことになると思いますが、先ほど申したとおり、なかなか先が見えないなという部分でございます。

協議会が終わった後に、私も久々にというか、1年ぶりぐらいですかね、もともと申し上げるのも忘れておりました。会場は、近代美術館の中にある会議室をお借りしました。水沢館長さんと相談を事前にいただいたので、無事に借りることができたということがありますし、終わった後に現在の特別展を学芸員の方にお話を頂いて、本当に短い時間ではございましたけれども、いい展示会、見せていただいたと思っています。

やはり、これまでもそうですが、やはりコロナの前は近代美術館の学芸員さんと葉山の小学校、中学校は比較的つながっていた経緯があったはずなんです、大分そこが分断していると思いますので、やはり近代美術館、関東エリアというか、全国レベルでも近代の美術を専門に扱っているいい美術館でございますので、葉山の今後の教育を考えても、子どもたちが芸術に親しんでいくというのは重要なことだと思っていますので、今後、もとのとおり、もっと言うならば、さらにという形で、芸術関係の部分に触れていくということを学芸員さんとも少し話し

て、また前みたいに頼むことがあると思いますけども、よろしくお願いしますね
ということ言いながら別れたというところでした。4点につきまして
以上でございます。

冒頭で申し上げたとおり、少しOECDのPISAの件についてお話を申し上げ
ておきたいと思います。ペーパーが表裏で4枚のものをお配りをしました。
時々新聞を賑わすこのOECD生徒の学習到達度調査、PISAというやつでござ
いますが、お配りしたものは、今回発表された1つ前のものというペーパーで
ございます。PISA調査の仕組みがあつて、さらにどんなものかということが
書かれておりますが、めくっていただきますと、PISAって何ということが書
いてあります。OECDの経済協力開発機構が行っているものですが、教育
のインジケータ事業の一環として、PISAと呼ばれる国際的な学習到達度
に関する調査を4年に1回実施しているというものです。これですね、義務教育
修了段階の15歳の生徒が参加しています。今はどちらかというと筆記という形で
はなく、コンピューターでの回答にどんどん移ってきているというところでは
なく、各分野の定義については、3項目のリテラシーをはかることになっています。数
学的リテラシー、科学的リテラシー、読解のリテラシーという形になります。調
査方法は下に書かれておりです。

右上に行ってください、PISAの調査の意義・目的ですが、これは、そこ
に書かれておりです。各国の競争をあおっているわけではございませんけ
れども、実際は各国がどのような形で現在の学習到達があるかということは、デ
ータによって明確に見える形になります。そういう中での調査があつたとい
うことでお考えいただければと思います。

2ページ目に行ってくださいと、平均得点の推移であるとか、2018年度の
OECD37か国による平均得点の国際比較で、各リテラシーが日本がどの程度あ
つたのかというのが2018年度の順位づけが見てとれるというところです。2018
年度の結果として、比較的広報、マスコミで問題になったのは、読解力のリテラ
シーがこのとき下がったんです。ここは問題視されたところがありました。

さて、こんな形がある中で、今回、ペーパー多かったのでお示しはしませんが、
2022というものの結果が発表されました。そのことについてだけ少し
お話しを申し上げておきたいと思います。今回PISAの2022は、81か国の地域
から69万人が参加しています。日本からは、全国の高等学校・中等教育学校後期
課程、高等専門学校の1年生のうち抽出がされた183校、約6,000人が2022年の6
月から8月の間に実施がされたものです。今回、日本はどうであったのかとい
うと、OECD参加国では数学的リテラシーは1位です。それから読解力は2位で

す。それから科学的リテラシーも1位ということで、3分野において高いレベルにあるという結果が出ました。これは、どういうことなんだという話が、私たちよく言っているとおりですが、これまでの教育の中身をどんどん変えていくべきだと言っている中で、2022の結果は悪くないじゃないかという話に当然なっていくわけです。マスコミの物言いもよかったんだという話が十分載りました。

ただ、これ、前提論がございまして、なぜよかったのかという話についてのOECD・PISAの一つの見解は、他国に比べて日本はあんなに学校が止まったと考えているコロナのときに、日本が非常に学校が止まった時間が短いんだそうです。つまり、結果としては他国に比べると継続的な学習がされたということがここで証明されているということ。それからもう一つは、これは文部科学省と経産省があのかときに一気にやりましたいわゆるICTの投入、GIGAスクール構想で端末を一遍にぼんと全国の小・中学校に配備しました。その結果として、葉山もそうだったと思いますが、学校の先生と一生懸命授業の、これは下位さんがすごくご努力いただいたことも伺っておりますけれども、授業のいわゆるビデオ系、オンデマンド系のものをたくさんつくって、子どもたちに何とか学びを止めないようにという努力を葉山もしています。それと同じように、全国同じような形で、何とか継続的にやっていくべきだということを日本の教育界は行ったという結果が恐らくここにつながっているんだろうということで、実は順位から言うと上がっているんです。ところが、ポイントは横ばいなんです。ですから、上がったわけではございません。ほかの国が下がったというのが実態だとお考えいただければありがたいというところです。

OECDは、今の関係の中で、レジリエントな国という地域を挙げています。つまり、困ったところから回復する力を持っている国としての考え方ですが、これが、4か国挙げられています。日本、それから韓国、リトアニア、台湾、この4か国だけです。ほかは軒並みデータが下がっているんです。それだけやはりコロナという影響を、学習を見る立場の15歳の子たちを今回はテストしていますが、恐らくほかの子たちは各国の中では相当ダメージを受けている状況があるんだというところが如実に出たというところだとお考えいただければと思います。

それから、もう一つこの中で、子どもたちにもアンケートをとっている中で、日本が典型的なところは、これはよく言われるところで、これからの教育の中で私たちが考えていくべきだと思いますけれども、ポイントはそれだけ高いのですが、残念ながら日本の数学の授業では、数学的思考力の育成のため、日常生活と絡めた指導を行っている傾向がOECDの平均値に比べて日本は極端に低いです。これはやはり授業の在り方というところが少し、もともとよく申し上げていると

おり、やはりドリル系に走っていたりとかして、計算能力は高いのかもしれませんが。ただし、これは何をいわゆる日常生活、社会に出たときにどうこれがつながっているのかというところに関しての関連性、つまり探究的な形の数学の授業になっていないんだというあかしとして、そのまま出てきてしまっているということです。

それから、もう一つ低いところで、ICT絡みは一生懸命使っているのですが、自らが何かあったときに自分で何とか解消していこうという自信がないというのが日本の子たちの答えです。これも先ほど申したこれまでの教育の中私たちが考え直さなければいけないところですが、やはり子どもたちが何かあったときには自らが解決をするという力が弱いので、したがって何であるかという、先生たちに聞けば答えが出るんだということ、あるいは、これはもしかするとご家庭の中でも同じようなことがあるのかもしれませんが。子どもたちが自分で解決をする能力が、自分たちの答えとしても低いです。つまり、私たちは誰かに聞かないと分からないということの明白な自分たちの物の考え方をしているんだということです。ここについては、やはり大きな子どもたちのある意味では困っている発信だと思いますので、やはり教育としては何とかしていかなければならないなと思うところでございます。

さらに、インターネットを調べていただくと、いわゆる国立政策研究所のほうにデータをしっかり出しておりますので、興味があれば見ていただければと思いますが、時折面白いなと思うのは、こんな形で細かいですけれども、各リテラシーごとに全ての参加の平均値が出ています。軒並み、大体いいのはどこかというところ、シンガポールですね。どれだけシンガポール、台湾の辺りが国策として教育にお金をかけてきたか。それから、理念的にどういう教育をしていくのかということ、これを明確に出しているところは、やはり強いということです。

それから、よく日本の中では、北欧の教育に対して憧れを持つ方々が多いです。これはフィンランド、スウェーデン、デンマーク、オランダ等々のいろいろな形の教育システムについて非常にいいんだという話が出てまいります。PISAのリテラシーでいくと、今の北欧レベルのアベレージは、残念ですが、低いとは言いませんけれども、高くはないですね。これは何を指しているのかというところについては、きちっとした形でやはり考察をすべきだと思っています。お国柄の様々な問題がありますので、単純に物は申し上げませんけれども、北欧の人たちの幸福度合い、充足度、生活充足度は高いものがありますよね。ただ、一方では、PISAのポイントは決して高いわけではないということ。これはどういう相関なのかということは、しっかりと考えていく必要が多分あるだろうと思って

います。

今日お話を申し上げたかったのは、後半でお話をした、日本、高くなってよかったねという話ではなく、日本の子どもたちがどこについて自分たちの意識としてウィークポイントだと思っているところがあるよというところが如実に出ていくところを、私たちが理解しながら今後の教育をしていくべきだということをご理解頂きたくてお話を申し上げたというふうにご理解を頂ければありがたいと思います。細かいところまでは申し上げませんが、一応そんなことがあるよということでお話を申し上げました。

それから、最後になりますが、前もお話ししたかもしれません。年度も終わりの3月25日に、今年も教育シンポジウムを開催させていただこうと思っております。これについては、今年については繰り返しになるかもしれませんが、おいでいただくのは、大阪の大空小学校の校長をされていらっしゃいました木村泰子先生にアポをとりましたので、木村先生においでいただきます。さらに、「みんなの学校」という文部科学省の推薦の映画がありますが、これも見ていただいたほうが、きっといいだろうと思っておりますので、福文で午前中、それから午後一番で2回上映をすることにしました。さらに、映画の観賞であるとか、それからそのときの司会進行であるとか、それからシンポジウムの登壇に関しても、これからの葉山にとってある意味では教育の中で重要な位置を多分占めていただけるであろうコミュニティ・スクールの関係で、学校運営協議会等々ご活躍を頂いている、これまでも下位さんもそうですけれども、PTA等々でご活躍頂いた方々にも登壇を頂きながら、今後の神奈川県としては先ほど申したとおり、今年の一つのテーマのインクルーシブというのがありましたが、木村泰子先生は根本的にインクルーシブという考え方自体が、そもそもこれがあること自体がおかしいという考え方をお持ちの方ですので、そういうことも含めて、葉山全体の中での支援教育、インクルーシブ教育をどう考えていくかというところを一つのポイントにしながら、シンポジウムを進めてまいればと思っております。また、YouTube等の発信に関しては、また下位さんにも大変お世話になると思いますし、委員の方々もお時間があるようでしたら、ぜひ映画も見ていただいた上で、木村先生のお話を聞いていただけるといいと思います。

ちなみに、木村先生、先週の金曜日にたまたま関東に前日に来られておられまして、翌日、葉山に行くよと突然おっしゃっていただいて、1日葉山において、管理職、小・中の管理職全員、それから今日ほぼいらっしゃる教育の関係の課長さんたち、それから指導主事等も参加した中で、木村先生から様々な講話というよりは、対話をほぼ2時間以上していただきました。彼女の話は表面

的な話ではございませんので、先生たちも楽しみながら、またヒントも頂いたところがある2時間ちょっとだったと思っています。木村先生自体も、葉山は6校しかないんだから、何とかまとまればどうとでもなるねというところをおっしゃっていられます。大空もそうだったとおっしゃっていましたが、つまり最上位目標というものをきちっと葉山の中で合意ができれば、何があっても、手段が違って、方法論が違って、必ずそこに戻るということをしていくことで、教育はぶれないだろうという理念を持ってられる方です。昨年おいでいただいた、現在横浜創英の学校長である工藤先生も、基本的には考え方は同じです。言い方が違うだけで、木村先生も工藤先生も、言っていることはほぼ同じです。それこそ、工藤先生は最上位目標という言い方をされますね。葉山はご承知のとおりで、1年ぐらいかけてましたが、校長と様々話をした結果、いわゆる教育のミッションをつくりました。このミッションが最上位目標になっていると考えていただければありがたいと思います。また、3月までの間で、町民の方々にも広報させていただいて、たくさんの方に映画も見ていただき、できれば今度は3月25日は終業式の日ですかね。ですから、学校の先生たちも午後の段階であれば、恐らく映画も見ていただける方もいるでしょうし、シンポにもおいでいただけたと思いますので、今回は町民だけではなくて、ぜひ教員に参加をしていただきたいなと思うところもあって、木村先生をお呼びしたということがございます。一応報告の最後ですが、そんなことが今年まだありますよというところで、ご報告を差し上げました。

私からは以上でございます。何かご質問等あればお受けいたします。いかがでございましょうか。

よろしいですか。それでは、ご質疑がなければ、これにて質疑を終結します。

以上、教育長の報告事項については、これをもって終了といたします。

(議案第19号、議案第20号)

教 育 長) 日程第3、議案第19号「葉山町学校運営協議会委員の解職について」、日程第4、議案第20号「葉山町学校運営協議会委員の委嘱について」を一括で議題とします。

議案について、教育部長、説明をお願い申し上げます。

教 育 部 長) 議案第19号葉山町学校運営協議会委員の解職について

次の者を葉山町学校運営協議会委員から解職する。

氏名 熊谷由美子

住所 葉山町上山口

辞職理由 一身上の都合

解職年月日 令和6年1月31日

令和6年1月24日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

葉山町学校運営協議会委員 熊谷由美子から令和6年1月31日をもって辞職の申し出がされたことに伴い解職する必要があるため、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第12号の規定により提案するものです。

続きまして、議案第20号葉山町学校運営協議会委員の委嘱について

次の者に葉山町学校運営協議会委員を委嘱する。

氏名 堀井理恵

住所 葉山町上山口

委嘱年月日 令和6年2月1日

令和6年1月24日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

葉山町学校運営協議会委員 熊谷由美子から令和6年1月31日をもって辞職の申し出があり、後任の委員を委嘱する必要があるため、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第12号の規定により提案するものです。

説明については以上です。

教 育 長) ありがとうございます。これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。

よろしいですか。質疑がなければ、これにて終結します。

議案第19号及び20号について、承認することにご異議ありませんか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。以上、議案第19号葉山町学校運営協議会委員の解職について、議案第20号葉山町学校運営協議会委員の委嘱については、原案のとおり承認されました。

(議案第21号、議案第22号)

教 育 長) 続きまして、日程第5、議案第21号「令和6年度葉山町教育予算(案)について」、日程第6、議案第22号「令和5年度葉山町教育予算(一般会計補正予算(第9号))(案)について」でございますが、これらのものにつきましては、今日は傍聴がいらっしゃらないから本来は非公開という形ですが、よろしく願ひしたいと思います。

それでは、日程第5の議案第21号「令和6年度葉山町教育予算(案)について」を議題とします。

議案について、教育部長、説明をお願い申し上げます。

教 育 部 長) 議案第21号令和6年度葉山町教育予算(案)について。

令和6年葉山町議会第1回定例会において、令和6年度葉山町教育予算(案)に係る議決を経ることについて、異存がない旨を申し出るものとする。

(別紙)

令和6年1月24日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、町長より教育委員会に意見を求められましたので、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第4号の規定により提案するものです。

それでは、別紙、令和6年度葉山町教育予算(案)のほうをご覧ください。前年度からの変更点を中心にご説明を申し上げます。

歳入全体につきましては、113万6,000円、0.6%の伸びで、ほぼ横ばいとなっております。

項目別に見ますと、使用料及び手数料につきましては、南郷上ノ山公園のテニスコートを中心に、コロナ禍以前の状況に戻ってきておりますが、しおさい公園のほうは一時期の女子旅人気の頃までの状況には戻っていない、そういった関係で、前年同額程度の予算計上となっております。

続いて、国庫支出金につきましては、新規の歳入、部活動指導者配置促進事業補助金があるものの、長柄桜山古墳の工事がほぼ完了したことに伴い、その影響で全体としては93万7,000円の減となっております。

続きまして県支出金、こちら長柄桜山古墳の減額はありますけれども、新規の部活動指導者配置促進事業補助金、それと地域学校協働活動推進事業県補助金の増により、全体では130万6,000円の増額となっております。

一番下ですね、諸収入。こちらの主たるものは学校の給食費となりますけれど

も、小学校・中学校とも給食費は令和５年度と同額に据え置いておりますので、前年と同額となっております。歳入については以上です。

続きまして歳出。歳出については1,285万円、0.9%の減となっております。各費目ごとに説明させていただきます。

まず、教育総務費は6,149万7,000円、18.3%の増となっております。前年度より減額となったものとしたしましては、教育センターの光熱水費、屋上防水改修工事の完了に伴うもの、それと三浦半島地区教育ネットワークの離脱に伴い、全体としては6,000万程度減額となっております。一方、増額となったものとしたしましては、G I G Aスクール端末用ネットワークのアクセスポイントの増設、これは6校全体で52か所、それと設定調整業務委託で2,583万2,000円、中高生議会で要望のありました新たな学習場所として中学校の図書室を試験的に放課後週1日2時間開放する費用として学校司書にかかる経費、部活動の地域移行に向けた取組の一環として、部活動指導員に161万3,000円、また支援を必要とする児童・生徒が前年度より増える見込みから、支援員の報酬1,698万7,000円増額要求しております。最も大きいものとしたしましては、教育委員会として進める教育のスローガン「学校をつくろう」を推進する学校の再整備へ取り組むため、学校づくり推進事業を新規に立ち上げ、小中一貫校建設に向けた学校整備基本構想・基本計画の策定費用やワークショップ経費など3,869万5,000円を要求しております。以上の状況から、全体では6,149万7,000円の増となっております。

続きまして小学校費。増額となった主なものは、小学校教育振興事業の顕微鏡やマット、デジタルカメラの更新に伴い331万3,000円、水泳授業に伴う大型バス借上料の値上げにより117万5,000円増となっております。そのほか、特別支援教育ソフトL I T A L I C O導入に係る使用料111万8,800円、小学校児童就学援助事業では対象者の増により359万円の増といったものがあります。一方、減額となった主なものとしたしましては、各小学校の光熱水費1,490万2,000円、葉山小学校屋上防水工事完了に伴う3,824万7,000円の減額がありまして、全体としては5,464万、18.9%の減額となっております。

続きまして中学校費。教師用指導書の購入980万8,000円、一人一人に応じた問題を機動的に出題するけいあいドリル、世界中で活躍する、大人が語る動画から考えを購入するインスパイアハイといったソフト導入経費299万7,000円の増額要求はありますが、中学校施設管理事業の光熱水費663万7,000円、葉山中学校プール槽改修工事完了に伴い799万7,000円、令和５年度でP Cの更新及び横須賀ネットワークからの離脱に伴う設定及び調整の完了に伴い744万3,000円の減額等により、全体としては1,346万4,000円、9.3%の減額となっております。

続きまして社会教育費については、962万5,000円、5.5%の減となっております。主な内容は、長柄桜山古墳の主たる工事が完了したことにより487万9,000円、図書館クラウドシステムの更新完了により396万円の減額によるものとなっております。

続いて、保健体育費の主な増減は、スポーツ推進計画策定に係るアンケートの完了に伴い313万1,000円、中学校給食調理、配送に係る委託料194万7,000円の減額がありますが、職員給与費で540万6,000円の増があり、全体としては218万7,000円の増額となっております。

最後に都市計画費ですが、南郷上ノ山公園管理事業と、しおさい公園管理事業が該当事業となります。南郷上ノ山公園の植栽管理については、現在はアルバイト員を雇用して実施しておりましたが、費用等を勘案し、業者委託へ変更することとしております。施設整備関係では、5年度のA、B、Cコートに引き続き、奥のD、E、Fコートの張り替えを計上しております。また、老朽化した防犯カメラの更新と、追加工事を行います。全体としては、受水槽と多目的グラウンド整備、トラクター購入等が令和5年度で完了したことに伴い、1,310万円の減額となっております。しおさい公園管理事業では、光熱水費の減や、ろ過装置関係の修繕の完了に伴い434万3,000円の減額となっております。都市計画費全体としては、職員給与費で1,854万5,000円の増があり、全体としては119万5,000円の増額となっております。

なお、歳入歳出の詳細につきましては、令和6年度教育委員会所管歳入予算内訳及び令和6年度教育委員会所管事業別当初予算内訳に記載させていただいておりますので、ご確認ください。

以上、簡単ではございますが、令和6年度当初予算の概要を説明させていただきました。

教 育 長) ありがとうございます。これより質疑を行います。予算案について何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、ご質疑がないようでございますので、これにて結びたいします。

議案第21号について、承認することにご異議ありませんか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。以上、議案第21号令和6年度葉山町教育予算（案）については、原案のとおり承認されました。

(議案第22号)

教 育 長) 日程第 6、議案第22号「令和 5 年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第 9 号））（案）」についてを議題とします。

議案について、教育部長、説明をお願いいたします。

教 育 部 長) 議案第22号令和 5 年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第 9 号））（案）について

令和 6 年葉山町議会第 1 回定例会において、令和 5 年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第 9 号））（案）に係る議決を経ることについて、異存がない旨を申し出るものとする。

(別紙)

令和 6 年 1 月 24 日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、町長より教育委員会の意見を求められましたので、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条第 1 項第 4 号の規定により提案するものです。

それでは、別紙、令和 5 年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第 9 号））概要をご覧ください。

歳入歳出ともに 3 万円の補正ですが、これは図書館の資料購入用として 3 万円の指定寄附があったため、その 3 万円を利用するため、図書購入費 3 万円を増額補正したものでございます。

説明は以上となります。

教 育 長) ありがとうございます。これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、質疑がなければこれにて終結します。

議案第22号について、承認することにご異議ありませんか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。以上、議案第22号令和 5 年度葉山町教育予算（一般会計補正予算（第 9 号））（案）については、原案のとおり承認されました。

(報告第 1 号)

教 育 長) 日程第 7、報告第 1 号「教育長の専決事項について」を議題とします。

内容について、ご説明をお願いいたします。

教 育 部 長) 報告第 1 号教育長の専決事項について

葉山町教育委員会事務局等の職員の任命について、専決したので報告します。

(別紙)

令和6年1月24日提出

葉山町教育委員会

教育長 稲垣一郎

提案理由

葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条第1項第1号の規定により専決したので、同条第2項の規定により報告するものです。

教 育 長) ありがとうございます。これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。

よろしいですか。質疑がなければ、これにて質疑を終結します。

以上、報告第1号教育長の専決事項については、これをもって終了といたします。

(各課からの報告)

教 育 長) 日程第8「各課からの報告」に入ります。

生涯学習課、よろしくお願いします。

生涯学習課長) では、生涯学習課から2点報告させていただきます。

まず初めに、令和6年二十歳のつどいについてです。冒頭に教育長からお話がありました、こちら令和6年1月8日、祝日（月曜日）、福祉文化会館にて開催しております。270名の参加ということですが、内訳でいきますと、町内の方が240名、あと30名につきましては現在は町外に住まわれている方、当時小・中学校を葉山で過ごされ方が町外に出た方で希望のある方ですね、そちら30名が出席しております。ホールの式典では、国歌斉唱、町長・議長からの挨拶、お祝いの言葉を頂き、最後に二十歳の実行委員2名が誓いの言葉を言うということで行われました。その閉式後に招待恩師34名の先生方を学校ごとに紹介しまして、各校お1人ずつ一言頂戴しているという形で行いました。

祝賀会ですが、令和2年以来4年ぶりに開催、実施しております。こちら大会議室で開催しまして、飲み物・軽食を用意、また中学校の校舎に実行委員が出向いて動画を撮影したり、昔の写真、アルバムから抽出したものをスライドにして、スライドショーで流したという形で行われました。

あと、軽食については、以前はお寿司とかオードブルを出していたんですね。でも、今回は袋、個包装のお菓子を出したりして持って帰れるようなもの、手をつけて、残っても持って帰れるような、そういったものを用意しました。あとは

テーブル数も若干減らした形をとって会場設定しました。その後、13 時過ぎに全て終了ということで、最後は福祉文化会館の外に集合して、全員で記念撮影をするという流れで終わりました。

今年度も、式典のとき二十歳の方のみお入りいただくということで、保護者や参加できない方のため、当日ライブ配信を行ったところがございます。この様子につきましては、後日ホームページでアップしまして、Y o u T u b eで見れるように作業を進めるところであります。来週ぐらいには確認できるようになるのかなというところであります。二十歳の集いについては以上になります。

次に、町民スキー学校について報告します。明日、1月25日（木曜日）から27日（土曜日）までの3日間、姉妹都市であります草津町、草津温泉スキー場において、第55回町民スキー学校が開催されます。一般参加者は、男性33名、女性13名の46人、スキー・スノーボードの内訳ですと、スキーが36名、スノーボードが10名となっています。その他、役員として、スポーツ協会、スキー協会、生涯学習課の職員合わせて17名、一般参加者46名、役員17名の63名、バス2台で向かいます。昨年同様、スキー・スノーボードのほかに、スノーシューという西洋式のかんじきをはいて、スノーハイキングというオプションツアーも用意しているところであります。

簡単ではありますが、生涯学習課からの報告とさせていただきます。

教 育 長) ありがとうございます。2点報告でした。何かご質問等ございますか。鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 守谷課長に聞きたいんですけど、年々少しずつ参加者減ってない。

生涯学習課長) スキー参加者、はい。昨年も実は46名で、今年、若干増えたんですが、キャンセルが5人ほど出ていまして、以前のようにバス4台、3台で行っていたんですけど、それを考えるとちょっと減ってはいます。恐らくリピーターの高齢者の方が来なくなったという現状はあります。

鈴 木 委 員) 将来的に少なくなれば、2台じゃなくて1台にして、参加者を優先して、事務方がついて行くのを減らすというぐらいに絞ったほうがいいんじゃない。バスとしても、今の数からいけば空いてるよね。僕が前に行ったときは3台だったんですけど、それでもばんぱんだったんですよ。1台と2台じゃ金額が大きく違うから、どうしても今後やっていく必要があるのであれば、参加者がその程度の人数なら1台でもいけるんじゃないかなという感じがするのね。そういうところも含めて考える必要があると思っているので、していただければなと。お願いします。

教 育 長) これについては承って、今後またどんな形にしていくかというのは、生涯学習課長とも、在り方を含めて、少しどうしようかねという話をしているところでご

ざいますので、やる、やらないの話ではなくて、ありようについて考えているところでもございますので、また新しい提案等々あれば、またご連絡を差し上げたいと思います。

他にごございますか。なければ、各課からの報告を終了いたします。

(その他)

教 育 長) 続きまして、日程第9「その他」に入ります。

それでは、市町村教育委員会研究協議会に小峰委員と下位委員と清水委員が12月21日にご参加を頂いているということですので、これについて簡単にご報告を頂けるとありがたいと思うんですが、どなたからまいりましょうか。小峰委員からでよろしいでしょうか。お願いします。

小 峰 委 員) 今、教育長からご紹介がありましたように、12月21日、オンラインで研修会に参加いたしました。私はいじめ対策・不登校支援の分科会に参加いたしまして、私と同じグループには新潟県魚沼市、和歌山県の橋本市、大阪府の羽曳野市、それから長崎県の長与町、それから沖縄の宮古島市、茨城県の坂東市、埼玉県の飯能市、そして神奈川県の上野原市から私が参加いたしました。

この分科会に参加するに当たって、事前に各教育委員会のいじめ・不登校に関する取組の資料を提出することになっているんですが、私はどの教育委員会もいじめ防止基本方針など施策上の体制は同じように整っていると思っています。そこで、いじめ・不登校が起こってしまう要因を子どもの側に立って見つけ出して、解決のための支援を行うことが最も大事だろうと思っていましたので、生きづらさとか困り感を感じている子に手を差し伸べる例として、長柄小のリラックスルームについて資料を提供したいなと思いました。

そこで、指導主事をお願いしましたところ、わざわざ長柄小学校の校長先生がまとめてくださったものを頂けましたので、そこをまた抜粋して、私が提出する資料といたしました。8人ぐらいで話し合った中で、やはりどう子どもに寄り添うかということが大事だというようなことは出てまいりました。その中で私が大変印象に残ったのが、茨城県の坂東市で行っている訪問型の家庭教育支援員という方がいらして、不登校気味になったご家庭に、2人支援員がペアになって訪問する。そういう取組を就学前から18歳未満の子どもがいる家庭について行っているということ。それが大変素晴らしいなと伺うことができました。これは平成28年度に文部科学省の委託を受けてスタートして現在に至って8年目ということですが、大変効果が上がっているということでした。

まず、学校からの早い情報提供をもらったならば、初期対応として、すぐに家庭

に出かける。親の悩みをまず聞いてあげる。そういうような対応をすることで、子どもを含めて家庭そのものを支援するということで、大変効果を上げているということを伺いました。やはり、昨年度も私、この分科会に出たときにも、いろいろな教育委員会で、いわゆるいじめ・不登校が起きてからの取組だけではなくて、それぞれが工夫した、子どもにいかに寄り添うか、子どもの困り感をどう発見できるかというところを大事にしている教育委員会がどんどん増えてきているなということを感じました。こういうことを他市町村の教育委員会を参考にして、葉山町でもいろいろな取組ができて、本当に子どもに寄り添うということができれば、いじめや不登校というのは少しでもなくすことができるんじゃないかなという感想を持って、この分科会を終了いたしました。

ただ、アンケートに書いたんですけれども、オンラインはそれこそ沖縄の方も参加できるという点ではいいんですけれども、資料を提供して読み上げるだけとか、紹介するだけでも時間がどんどん過ぎてしまって、なかなか話合いの観点が絞れないので、事前にどういうことについて話したいか、資料は資料で出すけれども、幾つかの話合いの観点の希望を出しておいて、司会の方が大変になるかもしれないけど、その中で絞って提示していただけると、もう少し話し合うことができるんじゃないかなと思いました。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。小峰委員のご報告に何かご質問等ございますか。

訪問型の学習支援、文科の多分モデル事業でやっていられると思うんですけど、うまくコミットできている家庭ばかりじゃないと思うので、大変でしょうね。

小 峰 委 員) そうですね、保護者の方とも子どもとも面談ができない場合は、手紙とかメールとかということでも、できるだけ見捨てないとか、見限らないでやっていくという粘り強さや、それから支援員の訪問する方が2人1組というのがまた心強いかなと思いました。

教 育 長) ありがとうございます。参考にさせていただければと思います。ありがとうございました。

続きましては、下位委員、お願いいたします。

下 位 委 員) 12月21日に令和5年度市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会に参加させていただきました。分科会は、GIGAスクール構想についてを選択いたしました。

皆さんのお話と重複するかもしれませんが、冒頭の行政説明は、教育委員の立ち位置というところから始まりました。今年が初めてという方もいらっしゃると思うので、これは現在の文科の考え方を軸に、教育長や教育委員の役割についての説明です。分科会のほうも事前説明の資料がございまして、こちらはグローバ

ル化、人口減少、少子高齢化、S o c i e t y 5.0、人生 100 年時代、これらのキーワードで社会が大きく変化する中、学校教育も変革が求められているという説明がありました。

通級指導を受けている児童・生徒数が、平成 2 年と令和 2 年を比較すると、小学校で11.7倍、中学校はなんと78倍になっているということです。35人のクラス編成の中でも、55%が多様性がある子どもであるという調査結果も出ている状況なので、誰一人取り残さないという方針でやっているわけなんですけれども、これが本当に今後も可能なかどうかということをテーマにされていました。これを可能にする一つの方法が、1人1台端末であるというふうに帰結されていました。

また、今後タブレット端末の更新に対する目標の説明もあったんですけれども、補助基準額が1台につき5万5,000円、予備機が15%までオーケー、補助率は3分の2。前もこのお話あったかと思うんですけれども、実際何年間使用した端末に対して補助が出るのかとか、いつから補助を使えるだとか、その辺の具体的な説明はなかったので分からなかったんですけれども、令和5年度補正予算で、この予算が2,824億円が通ったとおっしゃっていましたので、有効に活用していただきたいなと思います。

この後、分科会のほうに参加したんですが、私を含めて6名参加いたしました。G I G A端末の活用事例ですとか、教職員への研修、ハード面についての協議をいたしました。それぞれの自治体の特徴的な事例についてだけ共有させていただければと思います。

兵庫県丹波篠山市、人口4万2,000人の市でございますが、ふるさと教育というのを篠山市ならではの教育として、ずっと昔からやっていらっしゃるそうです。これにI C T端末が入ったことによって、ビデオだったりとか写真だったりとかというものを全ての生徒に配信しながら、効果的に活用しているというお話でした。

続いて岡山県井原市、人口3万9,000人の市で、教育長さんが参加されていたんですけれども、まずこちらは令和4年度に全幼稚園に配備を完了したという、これ、多分100%市の予算になるかと思います。I C T支援員が全ての日に学校に行っているわけじゃないので、行っていない日でも支援を受けられる体制を教育委員会の中につくりましたと。児童・生徒数が2,300人ということなので、葉山町に近い規模感だと思いますが、教育委員会だけではなく、市部局も含めて、I C T教育を進めようという強い意志が感じられた自治体でございました。

山口県の平生町、人口が1万1,000人の町です。小学生が100%持ち帰りを今、

実現しているということでした。中学校は、逆に毎日持って帰ってないという状況らしいです。ただ、その小学生が家庭で活用されているかどうかはあまり分かってないということでしたので、その辺が課題だとおっしゃってありました。

長崎県大村市、9万6,000人の市でございます。GIGAスクールリーダーというものを育成したりとか、リーディングDXスクール授業に参加したりとか、ICT活用エヴァンジェリスト育成事業であつたりとか、教員側の研修とか研究会の実施、活用方法の提案などを教育委員会としてやっています。大村市は、教育委員会が主体となってICT教育を強力に推進しているということでした。

そして、沖縄県恩納村、人口は1万1,000人の村でございました。授業支援のソフトとして、ロイロノートを導入されている。葉山と一緒にソフトを導入されている。あとAIDRILとして、ミライシードも導入している。持ち帰りの実施、家庭学習の支援をしていますと。端末に保険もかけていますと。非常に葉山に近いかなと思うんですが、児童・生徒数が1,000人弱ぐらいです。予算も大分あるみたいで、お話を伺うと、ICT支援員の配置ですとかは、かなり予算をかけてやっていたらっしゃるような印象でした。

GIGAスクール構想が始まって間もなく3年が終わって、今度4年目に入るような時期ですけれども、私自身は興味があるのでずっとこのGIGAスクール構想関連に参加させていただいています。去年までは、この協議会にご一緒したどの市町村もまだまだ不慣れで、W i - F i って何、というような感じだったんですけれども、今年は非常に皆さん詳しくて、浸透してきているんだなということを感じました。ハードウェアは委員会が用意するわけなんですけれども、ソフトウェアは学校任せではなく、委員会と学校が協力して授業での活用方法とか効果的なソフトウェアの選定なども行っているということは、全てのメンバーがおっしゃっていたので、そこが印象的でございました。

最後に、小峰委員のお話にもありましたが、グループが6人なので、多いんだと思います。6人が皆さん説明すると、それで1時間という話になっちゃうので、その辺、私もアンケートに書かせていただきました。

以上、協議会の報告とさせていただきます。

教 育 長) ありがとうございます。GIGAのほうは、第2フェーズに移っていくところになっているので、葉山もそうですけれども、今後ネットワークをね、より増強していかないと、なかなかもたない状況をどうしていくのか、根本的にインフラの考え方を整備しないと、スタート段階のインフラの在り方というのは、決していいわけではないので、本当は鎌倉市のように、文科がやっているサイネットにつながるような形をとれると状況としてもいい形になっていくと思いますので、またいろい

ろとまた相談させていただきながら進めてまいればと思っております。ありがとうございました。

では、清水委員、お願いします。

清水委員) 私は今回で2回目でした。前はシステムも分からないまま参加しました。下位委員がおっしゃったように、教育委員とは何かという説明を1年経験して聞くと、前回とは違う受入れ方ができたので、こういう機会を私のような新人にはつくっていただくのはありがく思います。

今回、分科会は小峰委員と同じく、いじめ対策・不登校対策について参加させていただきました。自治体規模がほぼ同じような三原市、鶴ヶ島市、田布施町、阪南市、日南市、射水市の教育委員と同グループで参加でした。どの市町村も不登校が激増しており、早急な支援が必要なお子さんが非常に増えているというのが共通項でした。それぞれに皆さん対策をとっていらっしゃいますが、三原市に関しては、未然対策に重点を置き15歳になったときにどういうお子さんに育っているかということを考えながら、対策をとっているということでした。

それから、鶴ヶ島市が特にその点を強化していらっしゃって、就学前検診でグレーゾーン、経過観察となった児童を包括的に見取っていくことを課題に掲げて対策しています。未就学児の段階からスムーズな就学につなげられるように、就学前の子どもと保護者向けに対策をとっているということが大きい点だと感じました。またhyper-QUテストを年に2回（小五～中三）実施し、分析結果を未然防止と経過観察、学校満足度を高める努力に生かしている点が参考になりました。参加されたどの市町村も、スクールカウンセラーを重要視していて、特に鶴ヶ島市はより専門性を高めるために臨床心理士の専門的な資格を持っていられる方を採用しています。しかし本来ならばスクールカウンセラーと臨床心理士を個別に雇用したいが、予算不足のため1人で兼務している状態で非常に多忙であるのが現実だそうです。しかしより児童に対しより専門性の高いアプローチができる人材を配備していることは参考になりました。

最後に、阪南市のシンパティアという阪南市教育支援センターをご紹介します。利用者は児童だけでなく保護書も対象です。様々な理由で不登校になられた方たちを、学校単位で対応するのではなく、シンパティアで対応するという試みをしていらっしゃって、それが非常にうまくいっていますというご説明をされました。開設時間は1時から4時で、本人と保護者、担当者で相談しながら、一人一人に合ったカリキュラムを組んで、手厚くやっているのが特徴的で、成果が出ているというご説明を受けました。私からは長柄小のリソースルームについてもご説明させていただきました。研究協議会を通しリソースルームの重要性を再確認

しました。困りごとを抱えたお子さんに対して、家庭でもなく学校でもなく、第二、第三の居場所というのが必要だということは、すでに教育行政に浸透してきている認識で、必要性を感じている現場の方たちが多い。必然的にその制度や施設が各自治体で整備されていることを再確認させていただきました。

グループディスカッションは時間が短くあまりできませんでした。自治体の情報だけ得るのではなく、ディスカッションしてさらに葉山町や日本の教育行政を考えることができればと感じました。

教 育 長) ありがとうございます。6名、7名は多いですね。私が参加したときに比べると、12月は参加者が多かったんですかね。もしかするとね。なので、6名ぐらいでいくと、恐らく皆さんおっしゃったとおり、ほぼその発表で終わっちゃいますよね。なので、小峰委員がおっしゃったとおり、少し司会があらかじめうまく整理をしながらやっていかないと、参加者の方々も何となく、参加した実感だとか、いろんなものを得られにくい状況になっているなど。文科は考えているみたいです。分かりました。ありがとうございます。ご発表、どうもすみません、ありがとうございます。

それでは、ほかの案件で何かございましたら、委員の方々から何かあればお受けしますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

なければ主な行事予定について、教育部長のほうからお願いいたします。

教 育 部 長) では、主な行事予定です。

1月25日（木）、県町村教育長会研修会

26日（金）、楽校改革戦略会議

2月5日（月）、楽校改革戦略会議、定例校長会議

13日（火）～、町議会第1回定例会

21日（水）、定例教育委員会（予定）

28日（水）、定例教育委員会（予備日）

2月21日の定例教育委員会の予定はよろしいでしょうか。

鈴 木 委 員) これ、確定しちゃっていいのね。予備日はいらないということで。

教 育 部 長) はい。2月21日の10時ということで、よろしく願いいたします。

教 育 長) ありがとうございます。それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、これにて閉会といたします。時刻は11時19分でございます。ありがとうございました。